三年前田利家に仕へ、百五十石を領し、慶長七年歿、子孫相繼いで藩に仕へる。

ヒロセノリヤス　廣瀬矩保　通稱富三郎・欣左衛門。寛政六年養父助左衛門の遺知百五十石を襲ぎ、改作奉行・御勝手方御用に任じ、文政三年頭並に昇り、五十石を加へ、天保五年御郡奉行兼改作奉行となり、後定番御馬廻番頭に進んだ。

ヒロセヒコノシン　廣瀬彦進　慶長七年父傳右衛門の遺知百五十石を襲ぎ、九年五十石を加へ、後更に百石を增し、萬治二年歿した。

ヒロセマサトシ　廣瀬政敏　通稱勘右衛門。大小將組に班した。元治の變、政敏國事に關して談論したるを以て、八月その家に錮せられたが、この時既に病み、獄未だ成るに及ばずして九月廿一日歿。享年廿八。大正十五年四月靖國神社に合祀せられた。

ヒロセヨソベエ　廣瀬與三兵衞　父は狩野小兵衞。與三兵衞外祖父の養ふ所となるを以て、氏を改めて廣瀬といひ、前田利常に仕へて御異風となり、知行百三十石・料三十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヒロセロクエモン　廣瀬六右衞門　初めて前田利常に仕へた。子孫藩に世襲する。

ヒロタカ　廣高　加賀の刀工。越前伯耆守藤原廣高の嫡子で、寛永頃この國に來住し、天和の初越中魚津に去つた。加州藤原廣高と切る。

ヒロタカサブロウ　廣田嘉三郎　諱は直久。藩の老臣本多氏に仕へて徒組に班した。人となり溫厚。明治四年十一月同志の故主本多政均の仇を報ぜんとした時、嘉三郎兵役に服して能登七尾に在つたが、內報を得て直に歸り、廿三日菅野輔吉を討つた。五年十一月四日自裁を命ぜられた時、年廿四。

ヒロタシヤ　廣田社　鳳至郡小伊勢の部落から西南の田圃中に在る。式內等舊社記に、『鳳至比古神社、式內一座、大屋庄小伊勢村地內鎭座。稱二平田明神一、或云廣田社。舊社地者一町餘北方、稱二日隅宮一地是也。中古合二併于小伊勢領神明宮一。』とある。しかしそれが式內鳳至比古神社であるか否かは確證を得ぬ。

ヒロタノブナリ　廣田信成　鳳至郡宇出津町の肝煎で、通稱を大聖寺屋八郎右衞門といひ、算學を江戸の內田五觀に習ひ、文政十三年正月氣多神社に奉額した。天保十三年十一月享年四十三で歿。

ヒロタキイチロウ　廣田亥一郎　大聖寺の人。諱は成信。天保十三年十月生。算學を坪川常通に受け、萬延元年十九歲で皆傳を得た。明治二年金澤に出で測量を學び、三年東京に移り、四年九月海軍兵學寮の洋算敎授となつたが、三年の後肺患を得て歸鄕した。その著に洋算階梯がある。十二年二月廿四日三十八歲を以て歿。

ヒロヅカ　廣塚　河北郡津幡附近に在る。寛延元年その地の俳人河合見風が、古來廣塚といふものが、冷泉爲廣の墳であると言ひ出した所から、初めて爲廣の後裔爲村に知られ、明和二年爲村がその次第を記して津幡の弘願寺に納めた冷泉家之記と題する一編は、今も同寺に藏せられてゐる。蓋し爲廣は大永六年七尾なる畠山義總の城中に斃じたのであるから、その墳が津幡に在るといふのは了解に苦しむ所で、全く誤謬であらうと思はれる。一說に、弘願寺はもと七尾附近の古府に居たので、その頃爲廣を寺域に葬つたのであるが、弘願寺が冷泉爲益の女を娶つた關係から、その津幡に轉じた際爲廣の墳をも移したのであらうといふ。しかし弘願寺が古府に在つたことを證明し得るものは一もなく、且つ廣塚が津幡の弘願寺と餘程隔離した位置にあるのだから、この說の如きは全く信じ得ぬ。

ヒロヅカサイキ　廣塚細記　河北郡津幡なる淸水八幡宮の側にあつて、里人の廣塚と稱したものは、冷泉爲廣の遺墳であることを、寛延の初に子孫冷泉爲村が聞いて、明和二年石碑を建つるに至つた次第を、爲村の書いたもので、津幡弘願寺及び石動山天平寺に納めたのである。本書天保元年に白華樵人祐吉(師田氏)の寫したものは、爲廣塚の細記と題してゐる。

ヒロツグ　廣次　加賀の刀工。加州住廣次と切る。永祿頃。

ヒロハシイツサイ　廣橋一齋　廣橋內大臣兼勝の子で、前田利常に仕へた。一齋の子市郎右衞門兼通に至り野崎氏を稱した。

ヒロハシゴダユウ　廣橋五太夫　大聖寺藩士。前田利明の時、老臣神谷內膳に隨うて、矢田野用水の見立繩張に從事したといふが、今詳傳を得ぬ。

ヒロヲカ　廣岡　石川郡戶板鄕に屬する地で、南廣岡村・北廣岡村の二部落に分かれてゐる。

ヒロヲカ　廣岡　鳳至郡櫛比庄に屬する部落。

ヒロヲカウヂ　弘岡氏　尊卑分脈に、林六郎光明の弟豐田五郎光成の二男弘岡三郎利成、その子同齋藤次重光・同小三郎利光がある。石川郡廣岡村を領した人であらう。この中三郎利成は白山宮の長吏大夫法橋成舜である。

ヒロヲカオチヤノミヅ　廣岡御茶水　石川郡北廣岡放生寺の後なる小路の往來脇に在る。茶道家など名水として賞翫し、前田利常の頃から元祿中まで之を御膳水に汲み用ひしめた。もとは走り井であつたが、後水勢衰へ、名水の名も亦廢れた。

ヒロヲカゴコウトウ　廣岡五香湯　石川郡北廣岡なる五香屋から賣出した產前產後の藥である。もと小立野奧村氏の家臣村田氏の傳方であつたもので、廣岡の五香屋では、一ヶ月のうち上半は本家、下半は支家で交換に發賣した。

ヒロヲカサンノウ　廣岡山王　→ヒラヲカノジンジヤ　平岡野神社。

ヒロヲカサンノウミチ　廣岡山王道　金澤中橋から平岡野神社に至る道路で、この神社は初め廣岡山王と稱したからの名である。今は日吉町といふ。

ヒロヲカマチ　廣岡町　金澤の町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、折進町・廣岡町と見え、國事昌披問答にも、廣岡町・圖書町・古道町と並べ載せてある。年代摘要に、『享保十二年六月北廣岡村新家願之通建之。』と見えるから、その頃願に依りて村地を請込み町家を建てたものであらう。

ヒロヲカリヨウエイ　廣陵了榮　字は戒忍、法名は現了、開神院と號した、羽咋郡大笹眞宗東派願行寺了法の五子。初め開得院法賢に、次いで開悟院靈昶に學び、弘化元年鳳至郡廣岡滿覺寺の了長に養はれ、依りて廣陵氏を冒